

3年後期課題

【第2課題】

子どもはどこで遊んだらよいか……。

高齢社会は同時に子どもが少ない少子社会のことです。現在子どもの数が少ないのは種々の原因がありますが、子どもが安心して保育される場が少ないからです。幼稚園とか保育所は、今から40年以上も前の社会に対応してつくられたものです。現在では女性の社会進出により、新しいタイプの「こどもの家」が必要とされ、現実につくられています。子どもにとって「遊び」は学習であり、生活そのものです。新しいこどもの空間を創造して下さい。

担当＝若色 峰郎

(P.46, 47)

【第1課題】

生涯学習の拠点

生涯学習の場としてつくられてきたコミュニティセンターは、各自治体の地域特性を生かし、既存の周辺施設との関連でつくられるケースが多く、その施設内容も多様である。また、施設形態をみても複合化の傾向にあるといつてよいであろう。その一方で週休二日制の導入による余暇時間の増大・高齢化等に伴って、世代を越えた各種サークル活動も活発化してきている。そこで今回は地域生活に密着した気軽に利用できて親しみやすい文化活動の場とは何かを考える。各自でプログラムを考え、それに見合う空間づくりを目標に取り組んでほしい。

【第2課題】

シティ・スポーツのための空間

これまでの地域スポーツ施設は、スポーツ経験のある人、健康な人(若者中心)のものが多く、施設をみても、団体利用のためのスポーツ空間が大半を占め、日常トレーニング型のスポーツ空間はごく一部に設けられていた。しかし、高齢化や、健康への関心の高まりなどを背景にスポーツレベルの低い子供や老人も自由に参加し、スポーツよりもレクリエーション感覚で利用できる施設が求められようとしている。そこで、スポーツとグループ・個人、スポーツと健康、スポーツとレクリエーション等について考え、その上で、スポーツの

メニューを各自が想定し、その受皿となる新しいスポーツ空間の提案をしてほしい。

担当＝曾我部 昌史

(P.48, 49)

【第1課題】

東京公園計画

新しく都市公園をつくる計画です。公園と言っても日比谷公園とかの大きなものをイメージする必要はありません。よくある「公園」のつくられ方にとらわれることなく、新しい公園の形式を考えてみて下さい。既にある公園のリメイクでもいいし、都市に既にある外部空間や建築に手を加えるようなことも考えられるでしょう。公園をつくるのが東京のランドスケープにかかわること、そして公園や公園を構成しているすべての要素が周辺の環境との積極的な関係をもつことが条件です。

①まず、自分にとって公園が「どういう場所であってほしいか」を考えます。

②そのために最も適した場所を探します。

③すでにある都市のさまざまな要素との関係を読みとり、その関係をもとに自分にとっての理想的な公園を構想して下さい。

【第2課題】

団地再生計画

昭和30年代に建てられた都内にある公団住宅の再生計画です。どこにでもありそうな、いわゆる団地と呼ばれるような建物で、建築としての保存が大きな意味をもつようなものではありません。再生計画なので既存の建物を壊さず、基本的な構造をそのまま利用することが条件です。その場所に合ったプログラムを提案するところから始めるという意味では、都市計画的な性格ももつことになるでしょう。

①その場所がどうなるべきかを都市計画や景観の視点で考えます。元が団地だからといって、必ずしも集合住宅である必要はありません。

②再生後の建物の機能をイメージします。外構部分などに新たに建築を設けることも考えられます。

③ももとの建物の要素・スペース・用途などを取り除いたり、逆に新しくつけ加えることで、再生後の建物を完成さ

せます。

担当＝西沢 立衛

(P.50, 51)

【共通テーマ】

近年、いわゆる新興住宅地というものが東京だけでなく地方都市にも、大規模なスケールで増えてきています。それらは、山や谷といった自然の地形を造成することによって突如として出現するケースが多く、人工的に作られたフラットな地盤の上を、均質な区画グリッドが無限に広がってゆくような人工的なエリアであると言えます。本課題では、近年特に顕著であり、これ以降もより極端化するであろうと思われる、住宅地という広大な均質な環境を背景に、どのような空間の提案がありうるかということ、テーマとしたいと思います。今回の課題では、住宅地という環境の中でもっともパブリックなものであろうと思われる公園と、もっともプライベートなものであろう住宅との二つを、課題とします。

【第1課題】

ニュータウンの公園

無限に広がってゆくかのような住宅地の中に、公園を計画するという課題です。周辺はまったく同形の敷地がひたすら反復してゆくような分譲住宅地で、その中に別図のように公園用地が与えられています。ふつうこういった地域の公園というと、子供が遊ぶための遊具セットが配されて終わりというのが常ですが、ここではそういう公園でなく、均質な住宅地の中にも新しい快適性をもたらしてくれるようなオープンスペースを設計してほしいと思います。自然に満ちた公園でもよいし、人工的な装置だけで作られた公園でも構いません。ただし、少なくとも周辺の人々に対して開かれた、公共性の高いスペースで、いつでも出入り可能で、訪れる不特定多数の人に休息や快適を提供することのできる空間であることが必要です。

【第2課題】

ニュータウンの住宅

第一課題と同じ住宅地の中で、住宅を設計するという課題です。周辺には自分の敷地と全く同形の敷地が同じような採光条件で同じような接道状況で無数に並んでいます。それらは北歐

風の家もあれば和風の家もありといったように、世界中のいろいろな様式が立ち並んでおり、あたかも住宅展示場のような人工的な環境をつくり出しています。こういった環境の中で、どのような住宅を考えればよいかという課題です。家族構成は自由で、延床面積も自由として、クルマ一台分の駐車場と主寝室と子供室とリビングと浴室とトイレとキッチンなどの標準的な室を持った住宅を設計して下さい。

担当＝吉田 博

(P.52, 53)

【第1課題】

自然の中のシティ・スペース 〈自然のかかわりを持つ建築空間の提案〉

情報は信じられないスピードで我々を取り囲み、この環境の中で人々は、自己の発見・発表の場そして人間性の回復の場を探しています。

緑のなくなった都市(シティ)の広がりの中において、わずかに残された自然に対し、建築と自然のかかわりあいを目的とした空間づくりが第一のテーマです。

そして空間づくりのために、建築の内容・目的・考え方に対し、意志を持った建築のプログラムをつくること、そして、空間デザインの表現を行うことが、第二のテーマです。施設(自己の発見・発表そして人間性回復の場)の考え方は都市(シティ)・文化・社会に対し、各自がまとめることとなりますが、活動(文化的・研究的・商業的……)とやすらぎを持つことを条件とします。

敷地設定は東京近郊の自然環境が保たれている場所とします。

【第2課題】

シティ・コンプレックス・スペース

〈都市を考え、これから必要な都市建築空間の提案〉

我々は都市に住まい、生活しています。生活のしかたは一人一人異なり、都市(シティ)とのつきあい方も当然異なっているはずです。

そこで、実際の「まち」を歩いて、そのまちのコンテクストを捕らえ、まちに必要なもの、改善すべきものを感じとって、都市環境のあり方を考え、既成の施設をまず見直します。

建築学コース

設計演習 I

各講師が担当する班毎に、異なる課題が出題され、学生は受講する班を選択する。

以下に、各班の課題を示す。

3年1組

担当＝関澤 勝一

(P.44, 45)

【第1課題】

今、小学校建築は……。

学校建築、特に小学校建築は変わりつつあり、従来の「型」にはまった建築は急速に消え去ろうとしています。その原因は、学校が社会に対してもつ役割が変わろうとしているからであり、学校自身としても児童の学習方法や教師の教える方法が根本的に見直されているからです。第二次大戦後にRCで建てられた小学校建築は、今、全面的な見直しに迫られています。設計対象とする小学校は自由ですが、できれば自分が6年間過ごした小学校の一部保存を含めた改築はテーマとしては最適だと思えます。

敷地条件を自分なりに整理し、社会的に必要と思われる施設内容を自分で決定・構築し、自らの設計条件（プログラム）とします。

この作業は、社会と自己との根底のかかわり合いをさぐることで考えています。パラエティに富んだ新鮮な切り口、またコンセプトを発展させた建築の提案を期待します。

敷地は、商業・住居が混在する活動的な原宿を設定します。

3年2組

担当＝高宮 真介

(P.54, 55)

【第1課題】

建築とランドスケープのインタラクション

一屋上庭園―

屋上庭園は、1926年ル・コルビュジエによって「新建築の5原則」のなかの1つに取りあげられ、近代建築の重要な言語として提案されましたが、半世紀近いその歴史の中で、ピロティや連続窓のように広く認知されることはありませんでした。しかし世紀末の現代にあって、空中庭園や人工地盤といった屋上庭園の発展系が、建築とランドスケープの間に新しい関係をもたらすものとして注目されています。これは建築とランドスケープがFigure/Groundという一元的でなく、多元的に関係しあうことによって、そこに新しい都市的な風景を生み出す可能性が期待されるためだと考えられます。また熱負荷低減の断熱効果や、夏期のヒートアイランド現象の低減などのエコロジカルなメリットも期待されます。以上のような趣旨を理解したうえで、第5のファサードとしての屋上庭園をもった建築の提案を求めます。なお庭園の解釈は、既存概念にとらわれることなく自由に発想をして下さい。またプログラムと場所は各自が設定して下さい。

【第2課題】

建築と都市のインタラクション

一駅―

大都市における駅は乗物の乗降という単純な機能では括れなくなっています。また改札口から乗降する場所までが駅という概念も大きく変わりつつあります。地下街につながる駅は、どこか

らどこまでが駅と呼んでいいのか分からなくなってきていますし、主要な駅では乗り換えのコンコースなどの空間が、むしろ駅と呼ばれる場所のような感じがします。つまり大都市の駅においては、「都市の中に駅」があると同時に「駅の中に都市」があるという、文字通り建築と都市のインタラクションが起こりつつあるといえます。また駅は、橋梁や隧道から建物まで、建築と土木のデザインの接点という意味でも非常に興味ある場所であるといえます。以上のような都市的な状況を理解した上で、既存の駅の改築または増築の提案を求めます。なおここでいう駅は、空港やバスターミナルのような空ものまで含むこととします。第1課題同様、プログラムと場所は各自が設定して下さい。

担当＝アストリッド クライン
(P.56, 57)

【第1課題】

パビリオン

イベント、フェスティバル、祭、トレードショウなど、それがどんな期間でいつ行われるか各自で設定し、その開会式のためのメインパビリオンをデザインする。パビリオンの姿とともに、いつまでたってもそこに訪れた楽しいときが思い出されるようなものにしてほしい。期間限定、仮設であることは普段の設計とは違ったさまざまなチャンスや楽しみがあるに違いない。それを十分に引き出してパビリオンを設計する。

【第2課題】

コレクターズハウス

あるコレクターを設定し、大好きな収集物に囲まれていたい人のための空間を作る。場所、新築・改装などの設定は自由。このプロジェクトは、ただモノを入れるための箱を作るというものではない。コレクターの収集物をいとおしむ気持ちや、執念ともいえる収集への情熱が、空間と密接に関係をもっているものにしてほしい。

担当＝椎名 英三

(P.58, 59)

【第1課題】

私の大学再生計画

君が今、通学している、この駿河台校舎を新しく考え直してみよう。

規模は、最低5号館、広場、9号館を含むものとし、それ以上の規模であってもよいものとする。(現実的には困難が伴うが、ここでは道路上に建築、デッキ等を計画してもよいものと考えている。)

それを単なる大きな建築として捉えることもできようが、アーバンランドスケープ(都市景観)を配慮した新しい都市的な構築体として構想することも可能であるように思われる。

ルイス・カーンは、“A GOOD QUESTION IS GREATER THAN THE MOST BRILLIANT ANSWER”という有名な言葉を残したが、基本的には、現状を把握し、それを越えて今何が問題であるのかを、君自身が発見することが大切であるといえるだろう。新しい建築、スーパーアーキテクチャーの出現が望まれている。

【第2課題】

礼拝堂・教会もしくは葬斎場・墓地

建築の本質は空間にある、と私は思う。建築は物質によって構成されるが、物そのものではなく、それらによって囲まれたネガティブな空間を感じる感覚が大切なのだ。優れた建築には、時代を越えて、心の奥底に響くような精神性の高い詩的空間がある。この課題では、そのような空間を追求してみたい。

具体的には、人の生と死、結びつきと別れ、そして祈りの場としての建築を考えてみた。ランドスケープデザインもその射程に入れてほしい。宗教については、特定のものでもよいし、そうでなくてもよいと考えている。何故ならば、宗教を越えて人々は、神聖なる場、聖なる空間と出会ったときには、自身の心の内に、その源泉である清冽なる泉を見出すことになると思われるからだ…。

担当＝高橋 寛

(P.60, 61)

【共通テーマ】

モダニズム建築の評価と再生

1950年代初期の近代主義建築には小品ながら完成度の高いものが多く、モダニズムという枠

を越えて現代にも十分に通用する建築が多い。

しかし、竣工後約50年を経過しようとしている現代、機能上さまざまな問題点が生まれていることも事実だろう。

モダニズム以前のいわゆる様式主義の建築については、その保存と再生についてのいくつか実例があるがモダニズムのそれは少ない。

ここでは、現役の近代主義建築を取り上げ、その分析、評価を通して各自にそのリニューアルについて考えてもらいたい。またその中で、新しい建築のあり方についても考察を加えてほしい。

【第1課題】

神奈川県立近代美術館

鎌倉の近代美術館は坂倉準三が設計し、1951年に完成した。第1課題ではこの近代美術館の現状及びその特徴を各自が分析、評価し、それをふまえて現代の美術鑑賞にふさわしい内容になるようにリニューアルすることを目的とする。

【第2課題】

神奈川県立音楽堂

横浜の県立音楽堂は前川國男が設計し、1954年に完成した。第2課題では当初一体となって設計された図書館を取り壊し、ここに小ホール等を計画する。

担当＝横河 健

(P.62, 63)

【第1課題】

リノベーション

〈都市(街)の愛すべき古い建築に命を……〉

新しいプログラムと内部空間についての提案を求めます。世界的な大都市の中で日本の都市部ほど建築の寿命の短い都市もめずらしいが、それは日本の特殊な社会構造が建築の本来の寿命と無関係にスクラップアンドビルドを繰り返してきた経済戦争の結果とみるべきであろう。しかし、我々はここで愛すべき古い建築に対して新しい時代に新しいプログラムを与え、新しい生命を吹き込まんとするものである。

アートギャラリーを組み込む、その他HOTEL、レストラン等自由にプログラムできる。

このプロジェクトは建築に新しい生命を与えるばかりでなく、都市の街並みを考え、人々の記

憶を断絶することなく歴史を構築する試みである。

外観を変えることを禁じているわけではないが、そもそも、「その建築を残す」という意味を失わないように。

【第2課題】

都市型集合住宅

〈「集まって住む」ということの意味を問い直す〉

日本の住環境は貧しいことは誰もが分かっている。

それは集合住宅においても例外ではない。

しかし何が貧しくて、何故貧しいのか、そして何をすればよいのかを考え、明らかにし、そして、それを改善実行するものが少ない。

ここでは、都市型集合住宅の新しいプログラムと新しい提案を求める。都市生活者にとっての豊かな住環境とは？を都市計画として、街並みとして、また集住内部の機能や面積においても新しい提案を求めるものである。敷地は歴史的背景を持ちながら商業的にぎわいのあるある場所とする。

担当＝松岡 辰郎

(P.64)

【課題】

CAD/CGによる建築の設計・製図

建築用2次元・3次元CAD/CGを使って、建築の設計や図面の作成を行う。

担当＝柳田 武

(P.65)

【課題】

CAD/CGによる建築の設計・製図

建築用2次元・3次元CAD/CGを使って、建築の設計や図面の作成を行う。

企画経営コース

企画設計製図

【課題】

集合住宅

都市近郊(東京都心及び周辺区)において、1ha程度の敷地を想定し、集合住宅(分譲・賃貸マンション)を企画・設計する。

(P.66)